

## 1. 第5回荒瀬ダム撤去フォローアップ専門委員会における意見等一覧

### (1) 水質調査(濁度)

No.	項目	該当ページ	発言委員	意見(要旨)	事務局回答(要旨)	現在の対応状況等
1	濁度とSSの相関について	議事録 P.8	大本委員	SSと濁度の相関を見ると、バラつきがかなり大きくなっているが、粒度組成を仕分けした上でやると、もう少し相関が高くなると思う。	出水時の粒度分布については確認している。また、今後に予定しているSS10~100mg/Lの採水時にも粒度分布の調査を行うので、次回に報告したい。	今回、濁度-SSの回帰式について報告する。
2	濁度計の管理	議事録 P.9	大本委員	基本的に、濁度計のチェックをした方がいいと思う。ドリフトからの特性を見極めた上で、異常値を取り除くという作業をやった方がいい。	濁度計の掃除の期間を1月に一回、データに異常が発生した場合はすぐに現場でその状況を確認できるようにしている。濁度自体の異常等については常に観測しているのでデータの異変を監視するとともに、異常値等のデータは詳細にチェックを入れていきたい。	-
		議事録 P.9	篠原委員長	川の中のSSという非常に変化があるものでやっているの、そのようになって(ばらつきが出て)しまう。		

### (2) アユの状況

No.	項目	該当ページ	発言委員	意見(要旨)	事務局回答(要旨)	現在の対応状況等
3	稚アユの遡上状況	議事録 P.10	大和田顧問	春はアユの遡上期にかかるので工事をしない予定だったが、事情により春に工事をする必要があったということだった。今年の遡上期も球磨川堰でアユの稚魚を採捕して放流したと思うが、例年と比べてどうだったか。データがあったら教えてもらえないか。また、工事の影響はなかったか。	<p>本年3月~5月に稚アユを330万尾放流しているが、昨年度が327万ということで、昨年度と同様の放流を行っている。そのうち球磨川河口堰でのすくい上げが、本年度が224万尾、昨年度が206万尾である。本年度も昨年度に引き続き200万尾以上のすくい上げができていたので、3月~5月に工事をしていたが、上流へ稚アユが十分に上ってきたので、昨年度来、良い状況にあると考えている。</p> <p>汚濁防止膜を当初一重で考えていたものを、現地の方で二重三重に増やすことで外への濁りの流出を抑える対策をすることで、濁度の方は抑えられてきたと考えている。</p>	-

### (3) 水位低下

No.	項目	該当ページ	発言委員	意見(要旨)	事務局回答(要旨)	現在の対応状況等
4	水質の監視体制	議事録 P.11	藤田委員	一日70cmでコントロールしながらゆっくり下げていくということなので、基本的に大丈夫だと思うが、下流の濁度など水質関係の監視体制について確認させていただきたい。	水位低下に伴う上流の護岸の状況、下流の水位上昇に伴う変化状況等については、カメラ等も設置して、随時観測できる体制は整えている状況である。	-
5	流量の計測	議事録 P.11	大本委員	流水型になるが、堰からの越流による流量と穴が空いた所の流量の両方を測れるような状態になっているか。	穴の中の流量は観測していない。ダム地点での流量はH-Qによる流量で観測するようにしている。	-
		議事録 P.11	大本委員	出水時の穴の空いた所からの流量はある程度試算しておいた方がいいと思うが、全体ではほとんど無視できるような流量になっているということなのか。	ゲートの流量は出水時には上から越流するので、ゲート内は流量的には閉塞状態に近いと考えている。流れるとしても非常に小さいので、実際のトンネルから流れる流量の比較では無視できる程度の量であると考えている。	

(4) 河床変動

No.	項目	該当ページ	発言委員	意見(要旨)	事務局回答(要旨)	現在の対応状況等
6	遙拝堰の河床低下	議事録 P.12-13	大本委員	38 ページで遙拝堰の上流では、年変動がマイナスになっている、河床が掘れているということか。 堰の効果によって十分河床は上昇して、つまり平衡状態になっている、それ以上はもう上がらないと解釈できる。十分上がっているから、低下傾向になる可能性があるということか。	そのように考えられると思う。	—

(5) 植物調査

No.	項目	該当ページ	発言委員	意見(要旨)	事務局回答(要旨)	現在の対応状況等
7	水位低下後の調査	議事録 P.13	佐藤委員	湛水状態が長く続いた部分が地上に出てくる場合は、事後の変化が改変直後に劇的に起こる。そこで、27 年度調査前の 25 年度に、植生調査等を中心とした調査を入れていただきたい。調査結果をどうこうということではなく、どういう変化が起こるかというデータを蓄積するという意味でお願いしたい。	植生調査については、本年度調査を進めたい。	佐藤委員の助言を踏まえ、ベルトトランセクト調査を実施予定。今回、調査内容について説明する。

(6) 底生動物調査

No.	項目	該当ページ	発言委員	意見(要旨)	事務局回答(要旨)	現在の対応状況等
8	ウスイロオカチグサのモニタリング	議事録 P.13-14	西野委員	移植元で取り残された種があり、その後さらに世代交代するのか、再生産できるか等の確認のため、逐次調べていってもらいたい。 移植先では、瀬戸石ダム下流側にかなりの個体数を移したが、見つかっていない。これが本当になくなったのかどうかを確認したい。	重要な種の調査については、広い所で再調査を進めていきたい。	今回、調査結果を報告する。
		議事録 P.16	篠原委員長	今度、再調査の場合は広めに調査範囲を設定してほしい。生物はけっこう移動し自分が好きな所に定着するので、意外と違う場所に移動しているかもしれない。		
9	環境変化箇所の総合的な取りまとめ	議事録 P.14	西野委員	ゲート開放によって水が流れ、百済木川や西鎌瀬で流水性の種が増えたのはわかるが、止水性の種まで増えるか。	流水環境に変化したと言っても、その周辺には川幅が小さくなって水溜まりができ上がり、多様な生息環境が広がってきていると考えている。	次回委員会(平成26年5月に開催予定)で、物理環境と変化と生物の変化を連動させて、箇所ごとに解析した結果を報告する。
		議事録 P.15	篠原委員長	ワンドは、元々何ヶ所くらいあったか。	百済木川は元々湛水しており、それから水位が下がって数 m の川幅に変わっている。その横に河原の部分ができ、そこに流速の遅いワンドが何ヶ所か形成され、そこに先ほどのコガタノゲンゴロウなどが見つかっている。	
		議事録 P.15-16	藤田委員	これから流水性になる所が、もっといろいろな変化があるかもしれない。そこで、その辺の変化を探知して、平面的にどうなっているか、生物との対応をどうか等、ピンポイントで連動させて重ねて見ていくとよいと思う。 こういった大きな変化があった所の理由を追求するという路線が一個あるのと、逆に明らかに流水性になって相当状況が変わったのに生物は変わってないとしたら、それも一つの大きな分析のポイントである。	今日御報告した内容がそれぞれの調査結果についての報告に終始した点があったが、今後それらのデータを、箇所ごとにきちんと総合的に判断しながら、その詳細な検討を進めていきたい。	
議事録 P.16	篠原委員長	底質の性状と生物分布がどうなっているか、別々に見てしまうと曖昧なモニタリングになるので、きちんと補完し、物性と生物の種とはどういう関係なのか少し解析いただきたい。				

## (7) 施工

No.	項目	該当ページ	発言委員	意見(要旨)	事務局回答(要旨)	現在の対応状況等
10	水位低下ゲート	議事録 P.17	柏井委員	水位低下ゲートはローラーゲートか。これは戸溝を持っているわけではなくて、ガイドレールの上を移動する形になるのか。	そのようになる。	—
		議事録 P.17	柏井委員	これから水位低下するが、試験放流的なことはしないのか。	ゲートの方の操作に関しては、下流側の放流口の貫通前に操作ができるかどうかのチェックはしている。 実際の放流については、下流への影響、特に6月1日はアユ漁の解禁があるので、周知徹底の意味からも6月10日に開始して、その中で状況については見ながら進めるしかないと考えている。	
		議事録 P.17	柏井委員	貫通前に、下流側は水を抜いた後水圧がかかった状態で動かしたということか。水圧荷重がかかった状態というのは、一応チェックができているということか。	下流側は水密をとった状態で、一応そういうチェックはできている。	

## (8) データ

No.	項目	該当ページ	発言委員	意見(要旨)	事務局回答(要旨)	現在の対応状況等
11	データの構築体系	議事録 P.18	藤田委員	大事なのは、どういう種別のものを、どのように残しておくかの全体像を常に持って、時々修正をしてもいいが、そのような体系があると、この大規模プロジェクトを10年後、20年後に見たとき、次の人がどういう知見を使えるかということが非常に重要である。 例えば、冒頭に、一連の取り組みの時系列があって、何年に何をやった、何月に何をやったとあって、それからデータ集のベーシックなものは、その前後が全部積み重なっているイメージとか、まとめ方のフォーマットを共通化して一貫性を持たせると、後々いいと思う。	資料の整理の仕方については、お手元にご説明してあるまとめでは、一部、以前のデータが示せていない部分もあるので、委員の御指導をいただきながら、引き続き検討したい。	次回委員会(平成26年5月に開催予定)で、データの構築体系案を報告する。
		議事録 P.18	篠原委員長	今までで初めての工事なので、多くの方がこの工事をやったときの資料が欲しい、どうやってやり方をしたのだと、あるいはトラブルが起こったときにどうしたのだと、トラブルだけを集めたトラブル集を使ってどのように解決していったかとか、そういう資料集が最終的に必要になると思う。そういう意味で今から資料をまとめていけばいい。私もお願いしたい。		